



森ボラ 通信



第64号 2007年9月20日発行

NPO法人 北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

トピックス

◆ 助成元からの視察2件

日本財団

8月3日(金) 石井克則 情報グループ アドバイサー を13時頃千歳空港に出迎え、澄川活動地に直行。到着を待ってニセアカシア炭化炉の初窯開きを行い、助成対象の炭化炉と薪割り機の活動状況をタイミングよくお見せすることができました。この時の状況はインターネット日本財団ブログマガジン、

(<http://blog.canpan.info/koho/monthly/200708/>) に詳報されていますので、是非ご覧ください。

2頁目の「ニセアカシアとの闘い 札幌の森林ボランティア [2007年08月28日(火)] 」と大きく掲載されています。



ニトリ㈱

9月13日(木) 秘書室広報担当より伊東盛幸、都築三四男の両名が澄川活動地の視察にお見えになりました。5周年記念行事第一弾のエゾヤマザクラ30本の植栽と、進行中のカミネコン植樹の状況を見ていただき補足説明をいたしました。先回の助成で装備した移動式製材機およびチップターの活動状況も現物をお見せして説明しました。9月も半ばというのにエゾゼミが鳴く中、蚊にたかられながらの視察でした。



◆ 「森は光り輝くまち」に旅して

(北海道森林ボランティア協会設立5周年記念研修旅行)

この記念旅行が発案された当初は、半年余りもの待ち遠しい期間があったが、いよいよその日が来たのだと思うと、札幌駅北口「鐘の広場」に三々五々集う面々にも笑顔がほころぶ。遠く長野県伊那市から参加した懐かしい顔S女史を加え、総勢27名を乗せた貸切りバスは、定刻出発もどかしく、5分前に札幌駅北口前を出発、途中、道央自動車道(札幌IC、→士別・剣淵IC)を利用、車窓に流れる初秋の風景を楽しみながら12:00過ぎ下川町に到着、町内ジャンプハウスで昼食、下川産食材の弁当は、質素であるがなかなか美味しかった。森林療法の効果を知るため、参加者の中から希望者3名を募り、昼食前と森林散策後に自律神経の測定をする。



ジャンプハウスには、日本はもとより、世界で活躍しているスキージャンプ選手の勇姿の写真が所狭しと飾られており、町を挙げてジャンプ選手の育成に情熱を傾けている事が見て取れた。特産品コーナーには、手作りエッセンシャルオイル、森林浴アロマスプレー、熊笹茶、木酢入浴剤、唐松木炭等数多くの製品が並べられ、この町の、森との深い関わりと、その恵みに付加価値を付け効率的に利用していることに驚かされた。

昼食後、町役場職員の案内により、FSC認証林の林内研修に貸切りバスで向かう。

車中にてこの町の林産行政について説明を受け、森と人との共生に感嘆する。

町職員のユーモアに富んだガイドとチェンソーアートに迎えられ目的地の森に着く。森には「森呼吸の森」↑ (つづ)

▽「寄付金の森」etc. とユニークな名が命名され、ニヤリと微笑まさせられる。森は、木々を利用再生（植樹）を繰り返しているの、若く生き生きとした森が連なっている。森を一巡した後、下川町森林組合北町工場を見学する。

この工場は s17 年森林組合設立に端を発してから、各種事業を起こし試行錯誤の結果、今では日本でも有数の、森を育み森からの恵みを授かり、それを人作りに生かしている「森と大地と人が輝くまち 下川町」を支える一翼を担っている様子が、事業内容を説明する担当者からも見て取れた。森からの恵みである樹木の利用は、森に有っては水を溜め、景観を作り、心を癒し、伐された後には、根、幹、枝、皮と何一つ捨てることの無く、各種製品（薫煙防腐処理材、円柱、防腐処理材、木炭関連商品、構造・造作用集成材等）に生まれ変わっているのに驚きを禁じ得なかった。「資源輸入・消費大国日本」、国・国民このくらいの資源の徹底利用を痛感して工場を後にし、今宵の宿「五味温泉」に入る。

バスに揺られ、森の呼吸を体内に満ちし、工場で感嘆、一日の疲れた身をバイオマス助けを借りた温泉に沈める。森閑とした森に囲まれたいで湯の宿に夕陽が包む頃、懇親会始まる。森を語り、いつ果てるとも知れぬ語らも、呑むほどに酔うほどに老木が朽ちるように寝床に崩れていく。

翌朝、朝食の後、五味温泉体験の森へ樹林気功を行いながら散策。一休みした後、美深町仁宇布「樹液研究」の寺澤先生の「国際ニウップ研究所」に向かう。研究所前では昼食のバーベキューが用意されており、食べながら、飲みながら再会を喜び、道北の森の恵み（白樺樹液）についてお話を聞き再会を約し、寺澤先生に別れを告げ、2日にわたる研修旅行の終章となるべく札幌行きのバスに乗り込む。

結びに、この研修旅行を計画、最後までお世話下さいました幹事の和田さん、津金さん、柴田さんに心から感謝の意を込め旅の終わりとします。（記、山中）

◆ 9月6日 活動報告

澄川緑林 参加者 16人

今夏は日照り続きで9月になったのにタマゴダケとわずかなラクヨウだけでボロボロはまだ全く見ません。ホダ場のシイタケも時知らずが少々です。

今日は新人の近藤さんも含め女性会員が4名で華やかな活動でした。次から次から仕事が変わり忙しい一日でした。ちなみにこの日の私の万歩計は久しぶりに9,714歩を示しました。

植 樹

先にカミネッコンに植えて木陰で養生していた苗木をニトリ助成の桜林の中に51本植えました。

ハルニレ トチ ミズナラ サクラなど広葉樹H50cmほどの苗木は石川さんの頻繁な灌水のおかげですすでに箱の底から根がはみだすほど元気でした。地剥しわずかにカミネッコンを埋めて草と木材チップでマルチングしました。

棟方さんの指導で一部は巢植え(3個寄せて植える)をしました。

炭焼き準備

19,20日に予定の第二回ニセアカシア炭焼き用の炭材詰め込みをしました。

窯の下段に細め上段に太目の炭材を詰め込みコーヒー缶で炭灰も試験仕込みし上に燃材をかぶせました。11時に粘土をこね始めちょうど一時間で完了しました。

昼 食

楡の木陰の昼食こそボランティア活動の楽しみです。杉本さんの「できたよ」の声に寄って行くと石狩鍋の匂い。前回のニセアカシア炭を使って鍋のほか湯沢さんなどの作品の焼きトウキビに焼きカボチャにデザートはスイカです。

ニセアカシアの萌芽切り

駐車場台地はずれにはびこっているニセアカシアの萌芽切りを全員で行いました。植樹したサクラなどが早く育って林床が暗くなって欲しい。(PS:この台地入り口にあった大きなニセアカシアが倒れてそれを炭に焼いているのだがその跡地に光が燦々降り注ぎニセアカシア萌芽が出てきただけでなくクズがはびこってイチイなどの植栽木に絡みついているのも大きな問題です。)

薪割り

二手に分かれて一班は除伐材の薪割をし他班はキノコ探しと2003年に割って使い残しの薪の敷出しをしました。(記、酒井)



■活動履歴

活動日	行事	参加人数	活動内容
9/20(木)	澄川	20	除間伐・倒木処理
9/19(水)	澄川	23	除間伐・倒木処理
9/18(火)	りんご園	14	葉つみ
9/16(日)	ボランティア交流会	8	近隣友好団体交流会（北広島市）
9/14(金)	りんご園	7	葉つみ
9/12(水)	森林研修（下川町）	27	森林セラピー体感と木工加工施設研修
9/11(火)			
9/10(月)	幹事会	9	
9/07(金)	りんご園	11	葉つみ
9/05(水)	澄川	17	除間伐・倒木処理
9/04(火)	りんご園	14	葉つみ
9/03(月)	澄川	16	除間伐・倒木処理
8/31(金)	りんご園	9	葉つみ
8/28(火)	りんご園	15	葉つみ
8/27(月)	木工	14	
8/24(金)	りんご園	7	葉つみ
8/23(水)	澄川	20	除間伐・倒木処理
8/21(火)	りんご園	14	葉つみ

■ひとこま

◆ 北広島市のボランティアは

市から手厚く保護されている

9月16日(日)、北広島市で開催された「石狩管内森林ボランティア」交流会に8名で参加してきました。

「いしかり森林ボランティア協会・クマゲラ」、「当別森林ボランティア・シラカンバ」、「NPO 法人藻岩山きのご観察会」、「北広島森林ボランティア・メイプル」と私たちの協会の5団体による交流会でした。

市有林のフィールドでは、機材保管庫・工作室・集会所・トイレなど等、二棟に分類されたうらやましい限りの施設が市側から提供されていて十分な活動が保証されていた。石狩市も似たような施設が供与されており札幌市との違いが際立った。この違いはいったいどうしたものか???

北広島市におけるボランティア活動に関わる高齢者のなんと生き生きとした姿がとても印象的でした。

次回の交流会日程は議題に載りませんでしたが、今後も継続して情報交換を続けたいと思います。

特に、除伐材の有効利用方法、加工技術、木工作品の紹介等、情報を深めたいと思います。(記、西野)

